拒絶理由通知書

特許出願の番号

特願2004-068991

起案日

平成20年 4月25日

特許庁審査官

亀田 貴志

9719 3T00

特許出願人代理人

恩田 博宣(外 1名) 様

適用条文

第29条第1項、第29条第2項、第37条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出してください。

理 由

- 1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。
- 2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記(引用文献等については引用文献等一覧参照)

- •請求項1
- 理由1、2
- ·引用文献等1
- ・備考

引用文献1 (特許請求の範囲等)には、粒子状物質の捕集量積算値を計算し、 該推定捕集量が基準値より大きくなると排気浄化装置に粒子状物質浄化用昇温処理を加えることにより前記排気浄化装置に堆積している粒子状物質を浄化する粒子状物質再生制御装置であって、排気浄化装置の前後での排気圧力差を検出する前後差検出手段と、粒子状物質浄化用昇温処理により再生直後にあるとき(本願発明の「堆積量が変換判定基準範囲内に到達した時」に相当)に、前記前後差検出手段にて検出された排気圧力差に基づく燃え残り捕集量が0よりも大きい場合



整理番号: PY20040260 発送番号: 249295 発送日: 平成20年 5月13日

には初期値として設定して、推定堆積量をより大きい推定堆積量に変換する内燃 機関排気浄化装置の粒子状物質再生制御装置の発明が記載されている。

- 請求項3
- ·理由2
- ·引用文献等1
- 備考

上記請求項1についての備考に加えて、推定堆積量を変換する時期を、昇温処理の完了直前にするか、完了直後にするかは、いずれも大量の粒子状物質が急激に燃焼する事態を防止しうるものであって、適宜設定変更しうるものである。

- ·請求項5
- ·理由2
- •引用文献等1
- ・備考

上記請求項3についての備考に加えて、引用文献1記載の推定堆積量の変換は 再生毎に繰り返すものである。

3. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第 2号に規定する要件を満たしていない。

記

本願請求項1「推定堆積量を計算」において具体的計算手段が特定されないところ、圧力差で推定した場合には、さらに圧力差に基づく「推定堆積量増加変換手段」を備えることの技術的意義が認められず、不明確である。

よって、請求項1、3、5-9、17、18に係る発明は明確でない。

4. この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

記

本願請求項1に係る発明は、理由1、2で示した引用文献1に開示されるごと く新規でなく、特別な技術的特徴を有しない。

よって、請求項1に係る発明と請求項2-18に係る発明との間で同一の又は対応する特別な技術的特徴を見出すことができない。

ただし、請求項3、5-9、17、18に係る発明については、審査基準に基づき、例外的に発明の単一性の要件を問わないこととする(「特許・実用新案

<u>整理番号:PY20040260 発送番号:249295 発送日:平成20年 5月13日 3/F</u> 審査基準」第I部第2章4.2を参照)。

以上のように、請求項1に係る発明と請求項2、4、10-16に係る発明とは、発明の単一性の要件を満たす一群の発明に該当しないから、この出願は特許 法第37条に規定する要件を満たさない。

なお、この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項2、4、10-16に係る発明、及び請求項3、5-9、17、18のうち請求項2、4、10-16に従属する部分に係る発明については特許法第37条以外の要件についての審査を行っていない。

引用文献等一覧

1. 特開平3-199614号公報

先行技術文献調査結果の記録

- 調査した分野 IPC F01N 3/ F02D 45/
- ・先行技術文献 特開2002-303123 (温度差について) 特開昭60-153414

この先行技術文献調査結果の記録は拒絶理由を構成するものではありません。

この拒絶理由について問い合わせがあるときは、審査第二部原動機・流体機械 亀田貴志(TEL 03-3501-4914 内線3355)までご連絡下さい。